

平成 17年度最終報告書

(様式 10)

被助成者 特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会

コード番号	05-A-279
-------	----------

実施事業名 バングラデシュ・ノルシンディ県における農村住民支援プログラム

助成期間 2005年11月1日～2006年11月1日

活動要旨

本事業の基本的活動は、当会の開発活動の基盤となっているシヨミティ活動と呼ばれるグループ活動である。自発的に集まった15名から20名の村人がグループ(シヨミティ)を結成し、スタッフとの定期的なミーティングおよび成人識字学級等を通じながら基礎的な保健衛生、権利、社会問題に対する知識を深めると同時に、貯金、ローン、技術訓練等によって包括的な生活向上を目指し活動するものである。また、シヨミティ活動の仕組みや考え方(自分の生活を自分でよくする力・自信を回復する)を継承し、現在の課題である「シヨミティ活動に入れなかった」、つまり社会的な差別等により社会サービス・権利から排除されているいわゆる最貧困層の人々をいかに活動に取り込んでいくかという点にも取り組んだ。具体的には、寡婦、低カースト、障がい者といった人々がグループあるいは個別のスタッフによる訪問と話し合いを経ながら、シヨミティに参加できる程度までの基礎的な貯金や収入向上にそれぞれが取り組み、実際に通常シヨミティを結成し、また編入が実現するなどの成果を上げている。こうした層はこれまで周囲のコミュニティとの関係性は断ち切られており、就労差別、賃金差別、あるいは婚姻、教育等生活全般において排除されていた人々である。このような根深い問題については、地域全体の理解と意識改革、問題解決のための行動が必須であり、有力者を含む様々な立場の住人をグループ化した村委員会や思春期の少女たちの結成した少女グループ等が、改めて村の人々が地域全体の発展を考え行動するという視点を持ちながら、従来 NGO のみが行ってきた村全体の福祉サービスに積極的に参加している。彼らはいわゆる最貧困層の人々のグループ活動における研修実施や、政府からの福祉サービスを得るための交渉、地域全体での啓蒙活動に積極的に関わり意識改革のリーダーとして他の村人の意識変革に大きな役割を担っている。

活動の目的

シャプラニールは1974年から同国に事務所において農村貧困層の自立と生活向上に取り組んでいる。本事業はノルシンディ県の農村地帯において、貧困層の相互扶助グループ育成を通じて教育・保健衛生・収入向上といった各方面での生活向上に取り組むものである。また、活動を通じ住民が社会に対して自らの役割に気づき地域開発に主体的に取り組むことを目的とする。

活動の内容と方法

今まではサービス提供を通じての住民の生活改善が事業の柱であったものを今年度からは、徐々に村人が自らの力で開発の主体となれるよう、話し合いやワークショップに力を入れる。また、特に成熟度の高いグループに対しては、ケアを徐々に減らし、自立的な活動が展開できるような支援体制を確立する予定となっている。一方で、活動歴の長いグループに対して、より効率的な収入向上活動の支援を展開するとともに、青少年や老人、孤児などこれまでに行き届かなかった問題についても取り組んでいく。

【Ⅰ. ショミティ活動】

土地を持たない、あるいは持っているとしてもその土地からでは家計が養えない世帯の住民たち 15～20 名から構成されるグループをショミティと呼ぶ。このグループを通じ、住民個人が生活改善に必要な知識・技術・技能を身に付ける。

目標⇒ショミティ数 194 メンバー数 3,479 人(及び 3,479 世帯の家族)が裨益する

- ・ ショミティ育成: 定期的な会議と決まった額を積み立てる貯金、それを元手とした投資を中心に行う。ショミティ結成から運営、生活に必要な様々な情報や知識を伝えるため、現地 NGO である PAPRI のソーシャルワーカーが定期的に訪問する。
- ・ 技術を取得するための研修や、保健衛生の環境向上を目指す研修が行われる。
- ・ 成人識字学級の実施: 生活改善に必要な読み書きや保健衛生の知識を学ぶために行われる 8ヶ月間の学級。4ヶ所での実施を予定。先生は同じ村(出来れば同じショミティ)から選ばれ、10 日間の初期研修を受けたのち学級で教える。識字学級卒業者が読み書きを忘れないよう、図書館の貸出しや「PAPRI 新聞」を発行し、フォローアップを行う。

【Ⅱ. ショミティ外各種グループ活動】

ショミティ活動に参加できない、最も厳しい状況におかれた住民(寡婦等の極貧住民・障がい者など)に対し、行政や地域住民によって福祉活動を行う。

目標⇒ショミティ外各種グループ活動に直接参加(グループは以下)する住民 1,679 人(及びその家族 1,679 世帯の家族)が裨益する

- ・ 最貧困層へのアプローチ: 個別訪問、グループでのミーティングを通じ、ショミティに参加できる収入確保と社会問題の理解、自信の回復を目指す。技術を習得するための研修や、保健衛生の環境向上を目指す研修が行われる。
- ・ 児童教育の実施: 様々な理由で学校を休みがちになったり、通えなくなった子どもへの補習学級の実施。週 6 日開催。

【Ⅲ. 地域での啓蒙活動】

上記の活動を行う過程で地域との係わり、行政との係わりを意識し、シャプラニールから独立したローカル NGO(PAPRI)が地域開発の担い手として地域住民から支持され、彼らとともに活動を発展させられるようになる。

- ・ 少年少女グループ活動
- ・ 村委員会活動

活動の実施経過および成果

【Ⅰ. ショミティ活動】

- ・ ショミティ育成

村の人々の組織化、育成、運営研修等予定通り行い、事業期間内に 201 のショミティが活動し、延べ 3,916 名が参加した。

ケーススタディ ～ショミティの成果～

ラビア・カトゥンさんはある女性ショミティのメンバーでした。彼女は家族 7 人を養うために働き詰めでありながらも生活のよくなる状況に疲れ切っていました。それを更に苦しめていたのは村の高利貸しからの借金でした。2,000 タカ(約 3,600 円)の借金は週に 5 割の利率というもので、長女は学校へ行くことを断念し首都ダッカへ働きに出ていました。

しかし彼女は近所の女性たちがミーティングだと言ってどこかに集まっていく姿をしばしば見かけていました。これが PAPRI のショミティである、と知ったのはもう少し後のことです。そこに参加する人たちはみな何かをしていて、いいことがあるように見えました。また家族の暮らしもよくなっているようでした。彼女はそのショミティに入れて欲しい、とお願いしました。

参加してしばらくするとショミティの低利のローンを 4,000 タカ(約 7,200 円)を借り入れることができ、まずは 2,000 タカの負債を返済することが出来ました。また、残りで古いリキシャ(人力車)を購入、修復して夫がこれで仕事ができるようになりました。一日約 150 タカ(約 270 円)の収入で、リキシャの賃料なども取られる心配がありません。この収入で借金を返済しながら、2,000 タカ(約 3,600 円)の貯金までやっつけました。これに 2 回目のローン 6,000 タカ(約 10,800 円)を元手に牛を買い、この牛乳を売ることによって毎日 40 タカ(72 円)の収入を得られるようになりました。安定した収入のおかげで、娘も村に戻り再び学校に通えるようになりました。彼女はもう自分を「変えられない」と思うことはありません。この一年で貯金は 40,000 タカ(約 72,000 円)まで頑張る予定です。

今では「近所の女性たち」の笑い声の中に彼女の声もこだましています。

・ 成人識字学級の実施:

男性 2、女性 6 の計 8 グループにて識字学級を実施した。予定通り教員も採用され、159 名(男性 40、女性 119 名)が参加し、また全員がドロップアウトすることなく終了した。1 回目試験では 94%、2 回目 89%、最終試験に 98%が合格した。

(1)図書館

識字学級修了者やその家族、プログラム受益者の継続的な学習環境の提供を目指し、390 冊の蔵書を用意し、事業期間中、162 ショミティから計 1,039 名が利用した。読書後はショミティで内容について自発的なシェアや議論が行われたり、プログラム内容によってはスタッフが本の内容を利用したりと、読書は識字の定着だけでなくショミティ活動全般にも役に立っている。

(2)PAPRI 新聞

読むだけでなく、文字を書くことも識字力保持には重要である。PAPRI 新聞は識字学級修了者が学んだことや日々のことを綴って投稿したり、あるいは保健衛生、最近の話題や生活上の注意など役立つ情報も掲載されていて親しまれている。事業期間内には 4 回、計 4,000 部がショミティメンバーや各関係者に配布された。

【Ⅱ. ショミティ外各種グループ活動】

・ 最貧困層へのアプローチ:

寡婦をはじめとする、貧困を余儀なくされる人々への支援としてグループ活動、ローンの提供を行った。これらの人々は社会的な差別により様々な社会サービスや権利、コミュニティから排除され、就労差別や不当な賃金により貧困に追いやられ、更に「貧しすぎる」ことで、NGO等が実施するマイクロクレジット等も返済の保障がないとほとんど提供されたことがない。しかし、3 年間の準備期間を経て本年こうした事業を行うことが出来た。ローンは金利 7%と通常の約 50%に押さえ、グループ活動も軌道に乗りつつある。本事業期間内に 43ヶ村をカバーし、51グループ(862名)及び 20 の個人が参加し、貯蓄は 142,035 タカ(約 255,663 円)、ローンは 247,245 タカ(約 462,861 円)提供

された。また具体的な収入向上活動として牛の肥育(20名)、家禽の肥育(19名)、塗装(4名)、野菜栽培(10名)、竹細工(20名)の計5種の技術研修を行った。技術訓練を実施するにあたっては、地元の有力者とともに聞き取りやグループディスカッションを通じて、最貧困と呼ばれる人々がどこに居住しており、何が必要なのかについて念入りな検証を行った。いずれも講師は地元から採用している。また地方政府との関係も深め、貧困者、高齢者、寡婦への補助金(配給カード)を得られるように交渉、こちらが作成した対象候補者リストの25%のメンバーがこれを得ることが出来た。

・ 被差別／指定カースト層：

特定のカーストの人々もまた、差別等で社会的に孤立し、特定地域にまとまって、あるいは地域の中で厳しい生活を余儀なくされている。地域の人々との関係性は断ち切られており、初等教育では時折子どもを見かけても中等教育に進む頃には皆無になっているほど、コミュニティの中でも格差がみられる。本事業期間内には142名(男性65名、女性77名)と活動を行った。

(1) 地域における問題理解促進

社会との関係性を取り戻すため、定期的な家庭訪問や地域でのキャンペーンを実施した。

(2) 識字学級

識字学級を設置し、日々学習に取り組んだ。19名が参加し18名が修了試験を受験、全員が合格した。読み書き、計算、基礎的な保健衛生知識等も学習することができた。トイレの利用や、使用後に石鹸で手を洗うことなどの変化もみられた。

(3) ショミティ活動

基礎的な生活基盤を強化するため、また社会関係を取り戻すために集団で暮らす人々はショミティを結成し、個別に生計を営む人は近隣の既存ショミティに編入することで社会生活の基盤強化に努めた。一人3,000TK~4,000TK(約5,400円~7,200円)のローンの提供も行われたが、議論にも大きく時間を割き、自分のもつ力、出来ること、生活改善への意欲を深めた。

・ 障がい者：

これまでコミュニティの中でその実数も把握されていない状況にあったところ、全戸訪問を行い、事業期間内に98名の障がい者への支援活動を行った。

(1) 地域における問題理解促進

障がい者本人および家族、地域等かかわりのある者すべてが問題を理解すること、それぞれの役割を理解することが必要である。そのため、村単位、学校単位、家族単位、地域の有力者のミーティングが計88回開催された。また国際障害者デー等での街頭ラリーと集会が計2回開催され102名が参加、ラリー後の集会では障がい者が自らの気持ちや状況を語る場も設けられた。

(2) 統合と権利

特に障がいを持つ子どもに関しては公立学校への入学を促し基礎的な権利である初等教育へのアクセスを17名に確保した。また職業訓練が行われ裁縫6名、竹細工9名、菓子箱作り8名が研修に参加した。

(3) 理学療法の技術援助

専門的研修を受講したスタッフが6種類の器具等を利用しながら22人に対して基礎的な理学療法を行ったほか、車椅子2台、松葉杖4セット、白杖4等を支援した。

(4) スタッフの技術向上

事業期間において3名の職員および1名の村人が専門研修を受講し、日常的に行える理学療法の基礎的な技術を習得した。

・ 児童教育プログラム：

計4センターで261名(男子141名、女子120名)の児童が学習。うちドロップアウトは1名。全員

が公立学校にきちんと通いながら当補習プログラムで学習内容の正確な定着を図ることができた。そのため学校への出席率、成績もよく公立小学校の授業の質が向上したと政府からもその成果について評価を受けている。尚、5年生で36名が奨学金試験を受け、非常に厳しい競争の中8名がこれを得ることが出来た。また、日頃より保護者、教員、センター運営委員とのミーティングも定期的に行い、地域に根付いたセンター運営を行っている。

・ 働く子どもたちへの支援:

事前に行ったサーベイによると、この地域には237名の働く子どもが確認されている。事業年度には2箇所の市場内にそれぞれセンターを設置し、以下の活動を行った。

(1) 地域における問題理解促進

活動開始に当たっても関係者の理解促進が重要である。働く子どもたちはもちろん、雇用主、店の大人、保護者、他の活動を行っている人々等、関わる人々を巻き込みながら子どもたちの直面している問題や必要な支援について話し合いを重ねた。また開始後も子ども、保護者、雇用主との定期的なミーティングを続け、総合的に子どもを守る関係作りを行っている。

(2) 教育活動

センターでは基礎的な読み書き、計算、子どもの権利、保健衛生の知識等、社会生活に必要な知識を含めた教育活動をカリキュラムに沿って行っている。また達成度を測るための試験も実施した。両センターで計2名の教師が配置され、40名の子どもが参加、のべ569日(週6日実施)にわたって授業が行われた。また、2名の子どもが途中で不参加となった。

活動開始直後は、雇用主は子どもが仕事場に戻らない、転職をする、高い賃金を要求するようになる等の不安から非協力的な姿勢を見せることも多かった。子どもたちも、仕事後に更に難しい勉強をこなせるのか、雇用主に嫌がられないか等の不安があった。しかし、センターに通うことが楽しくなった子どもたちが仕事でも明るく礼儀正しく振舞うように変化したことを見て、雇用主や家族も協力的になりつつある。

【Ⅲ. 地域での啓蒙活動】

・ 少女グループ:

早婚や持参金等、少女の健康な発育、健全な社会的権利を脅かす社会習慣について正しい知識と社会変化をもたらすために、リプロダクティブヘルスを学びコミュニティでの主体的な啓蒙活動を行うものが少女グループである。事業期間において27グループ(計370名)が活動に参加した。

(1) 地域における問題理解促進

地域における街頭行進、劇、ディスカッションを含むキャンペーンプログラムを1回実施した。

(2) リプロダクティブヘルス研修

事業期間中20グループの代表者に行った。代表はそれぞれのグループで同年代のメンバーに知識を広め、理解を促進する役割を担う。

(3) その他研修

収入向上・生活改善のため、調理と栄養研修(10グループ10名)、手工芸(10グループ10名)、家屋衣服のデコレーションと衛生研修(10グループ10名)を実施した。

(4) 母親への啓蒙

少女たちが学んだリプロダクティブヘルスとそれに伴う女性の権利について母親と考える機会を持った。これにより、少女達が様々な悩みを母親と共有できるようになった。

・ 村委員会:

事業期間に8つの村委員会が結成され、計261名(男性141名、女性120名)が活動を進めた。

毎回話し合った内容は議事録に残されている。ミーティングでは争いごとの解決、村における社会問題等が話し合われ、村の保健衛生状況を向上するためのトイレ設置については行政官との連携も独自に進めている。地域全体の啓蒙活動に関しても活発に動き、9月8日の国際識字デーにおいてはすべての識字学級をまとめ、街頭でのデモ行進やディスカッションを含む啓蒙キャンペーンを組織した。

また、最貧困層、少女グループ、シヨミティで行われる研修生選出への協力や研修後のフォローアップにも積極的かつ深い取組みが見られた(注:最貧困層へのアプローチ参照)。

今後の課題

当会の開発活動の基盤となっていたシヨミティ活動の仕組みや考え方(自分の生活を自分でよくする力・自信を回復する)を継承しつつ、現在の課題である「シヨミティ活動に入れなかった人々」をいかに活動に取り込んでいくか、またそのために改めて村の人々が地域全体の発展を考え行動する、という視点を取り込んでいける活動を目指し、今期いわゆる「シヨミティ」でないグループの活動展開の充実を目標としたが、そのスタイルは徐々に確立されつつあるという実感が持てた。一方、バングラデシュの農村にも経済活動の影響が徐々に及ぶようになり、地域全体の開発の度合いに差が出来つつある。つまりダッカへの輸送を前提にした近郊農業が産業基盤となっている当事業地では、流通経路となる基幹道路の急速な整備とそれに隣接する地域の目覚ましい発展がみられる一方、例えばチョール(中州)と呼ばれるような従来から貧しく、取り残された地域は、マイクロクレジットの返済が見込めないことから NGO の支援も届かず、トイレ使用や識字、貯金といった最も基礎的なサービスさえも導入されていない現実もある。今後はこうした地域を含めたより広域な「地域開発」を目指し、必要があれば新たな事業地での活動を開始し、更には行政、他の NGO との連携も視野に入れながら重層的な活動を行っていきたい。